

安城市への移住動機・傾向に関するアンケート調査結果

目次

1 調査概要	3
アンケート調査の概要	3
2 回答者の属性	4
3 調査結果	6
(1) 安城市への転入理由.....	6
(2) 転入後の住まいや仕事の状況.....	12
(3) 転入によるメリット・デメリット	16
(4) 安心して転入するために期待すること	23

1 調査概要

本調査は、愛知県外から安城市に転入した人が、どのような経緯で居住することになったか、転入前後で暮らし向きはどのように変化したか、生活環境をどのように評価しているか等を把握し、今後の本市への定住促進に向けた方策を検討するために実施するものです。

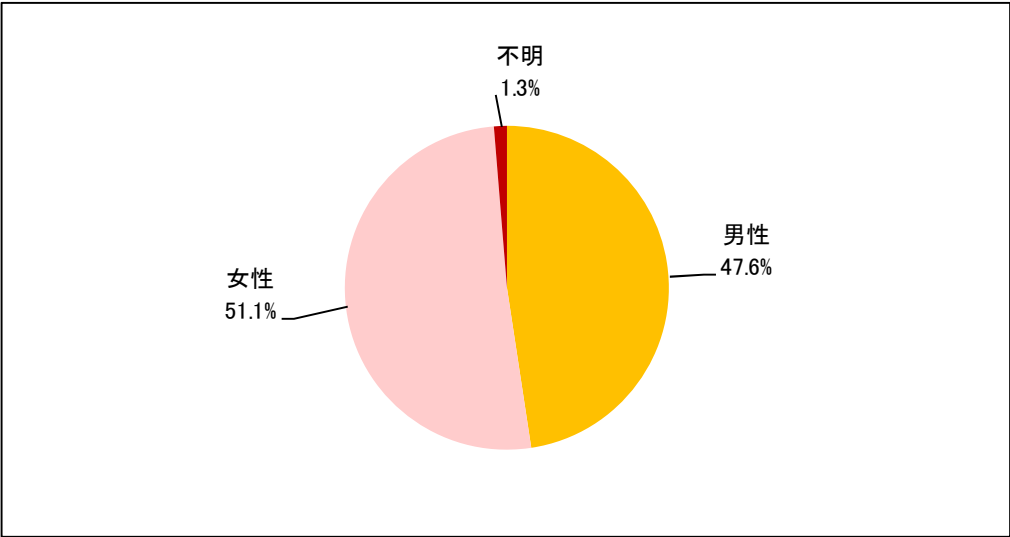
調査の概要は下表のとおり。

アンケート調査の概要

調査対象	過去3か年以内に愛知県外から安城市に転入した人
調査方法	郵送による配布・回収
抽出方法	住民基本台帳から1,000名を無作為抽出
調査期間	2015年7月1日（発送）～7月15日（投函期限）
主な調査項目	<input type="checkbox"/> 安城市への転入理由 <ul style="list-style-type: none"> ・ 安城市に転入したきっかけ ・ 安城市を転入先として選んだ理由 ・ 安城市の居住経歴 <input type="checkbox"/> 転入後の住まいや仕事の状況 <ul style="list-style-type: none"> ・ 安城市で居住する住宅の確保の方法 ・ 安城市で転入後の仕事 <input type="checkbox"/> 転入によるメリット・デメリット <ul style="list-style-type: none"> ・ 安城市への転入後の家計の状況、世帯収入 ・ 安城市への転入後、良く（悪く）なったと思うこと ・ 前住地などと比較して感じる安城市の良いところ <input type="checkbox"/> 安心して転入するために期待すること <ul style="list-style-type: none"> ・ 安城市での居住を検討していたときに不安だったこと ・ 安城市へ転入しやすくするために期待する支援 ・ 安城市での居住を検討する際に提供が期待する情報
回収状況	有効回答数：313部（有効回答率：31.3%）
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・ 設問文末の記号について、「SA」は単回答、「MA」は複数回答、「NA」は数値記述、「FA」は自由記述となる。 ・ グラフ下の「n=〇」は該当する回答数を示す。 ・ 回答の集計は、選択肢の回答数を総回答数で除したものを%表記しているが、小数第2位を四捨五入しているため、各回答の合計が100%とならない場合がある。

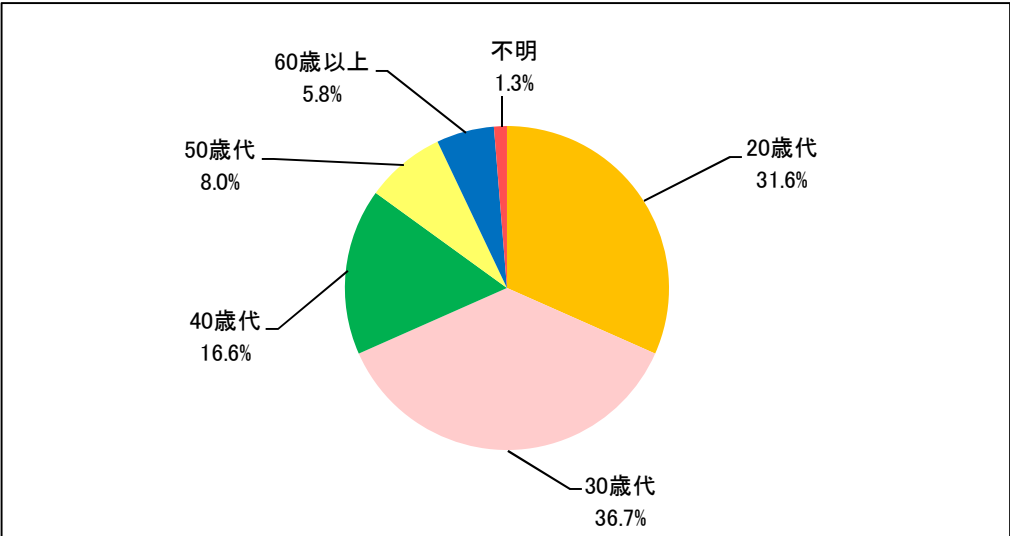
2 回答者の属性

①性別



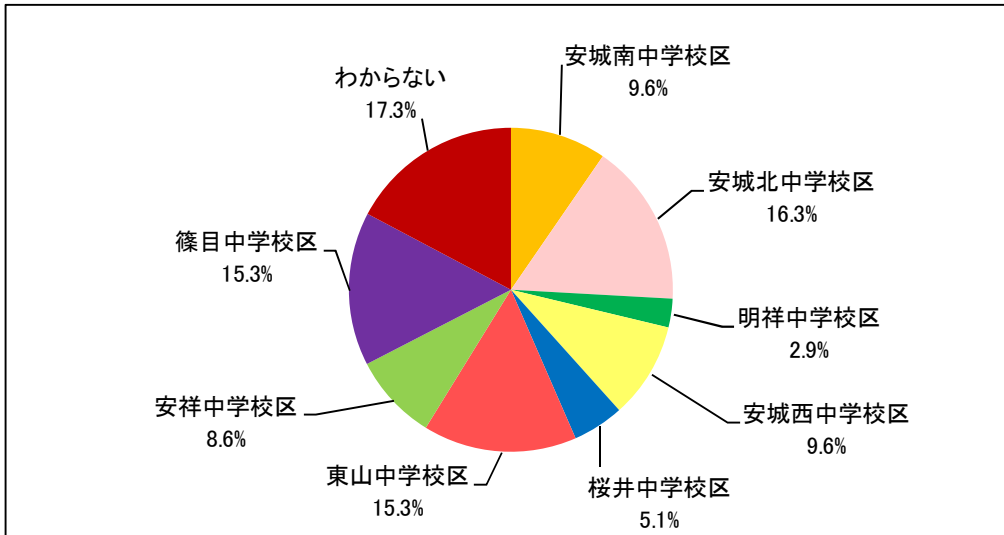
(n=313)

②年齢



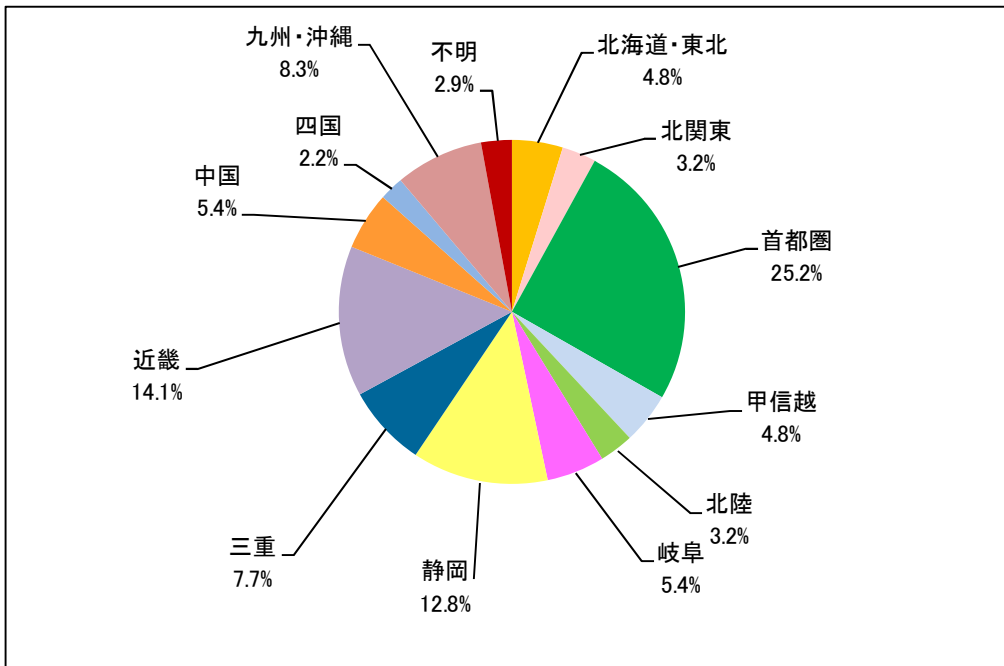
(n=313)

③現在お住まいの地区



(n=313)

④安城市に転入する直前の居住地



(n=313)

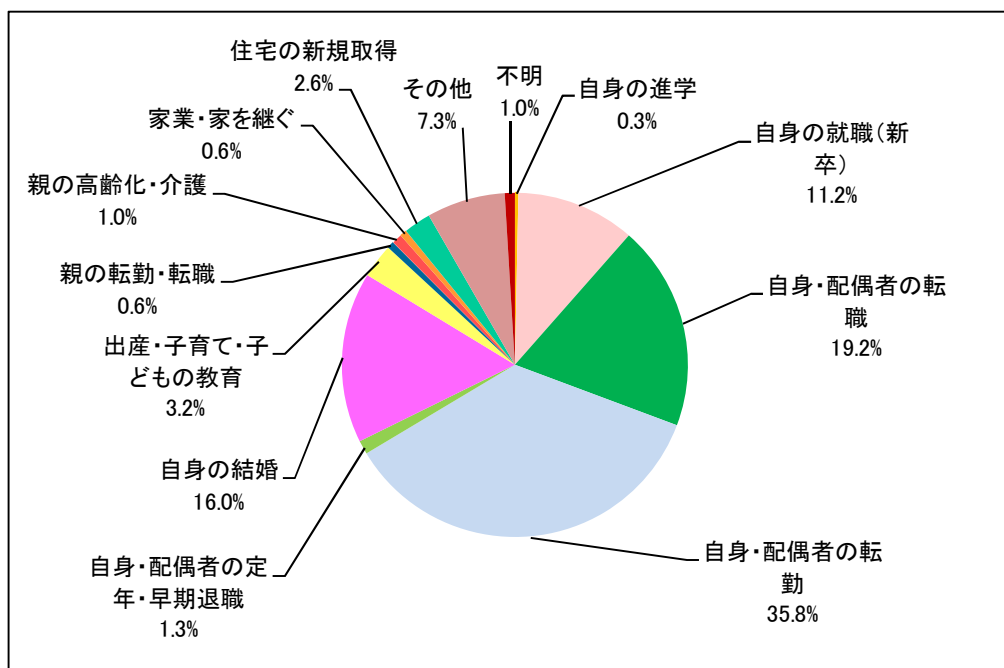
3 調査結果

(1) 安城市への転入理由

問1	あなたが安城市に転入したきっかけ (SA)
----	-----------------------

「自身・配偶者の転勤」が 35.8%で最も多く、次いで、「自身・配偶者の転職」の 19.2%となり、半数以上の人の転入のきっかけが転勤や転職となっています。

この他、「自身の結婚」が 16.0%、「自身の就職 (新卒)」が 11.2%で 1 割を超えています。



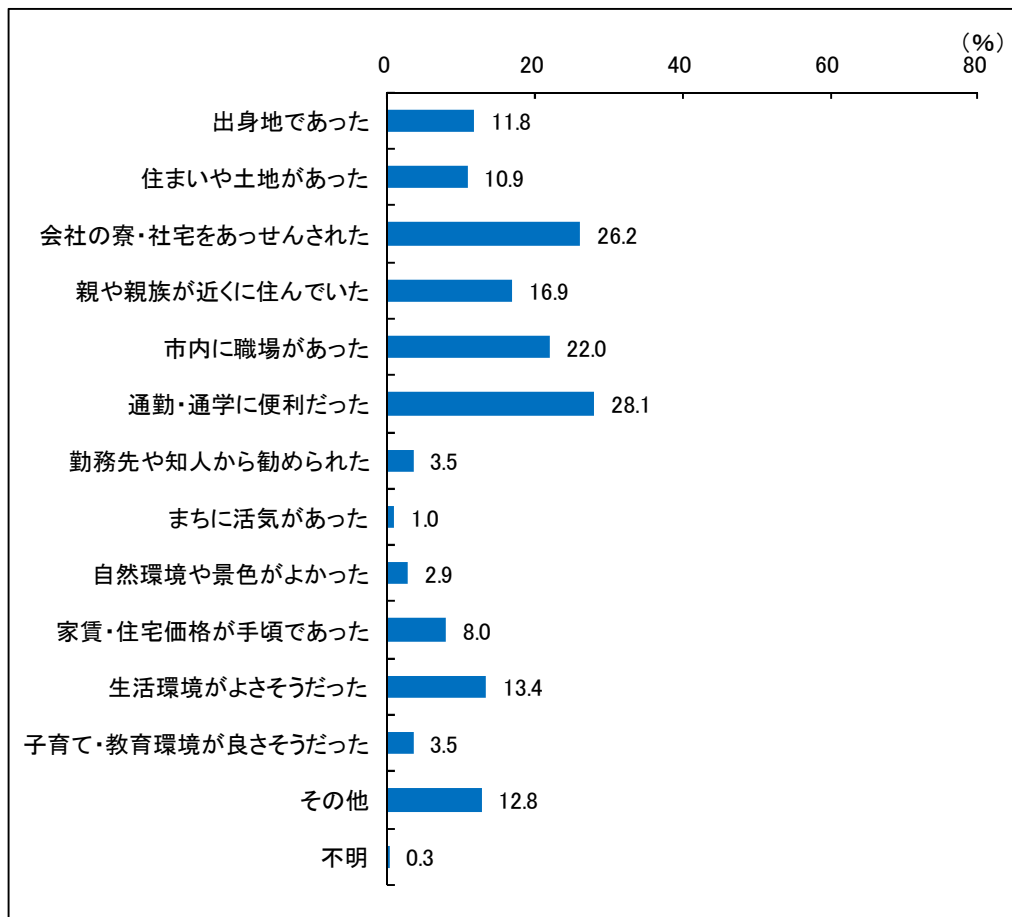
(n=313)

問2

安城市を転入先として選んだ理由（MA:3つまで選択）

回答は分散傾向にあり、最も多い「通勤・通学に便利だった」で28.2%と約3割にとどまっています。次いで、「会社の寮・社宅をあっせんされた」が26.2%、「市内に職場があった」が22.0%となり、仕事が居住地選択の大きな要因となっています。

理由は3つまで選択可能であるものの、2割を超えるものはこれら上位3項目のみであり、大きな理由1つをもって転入してきたことが推察されます。

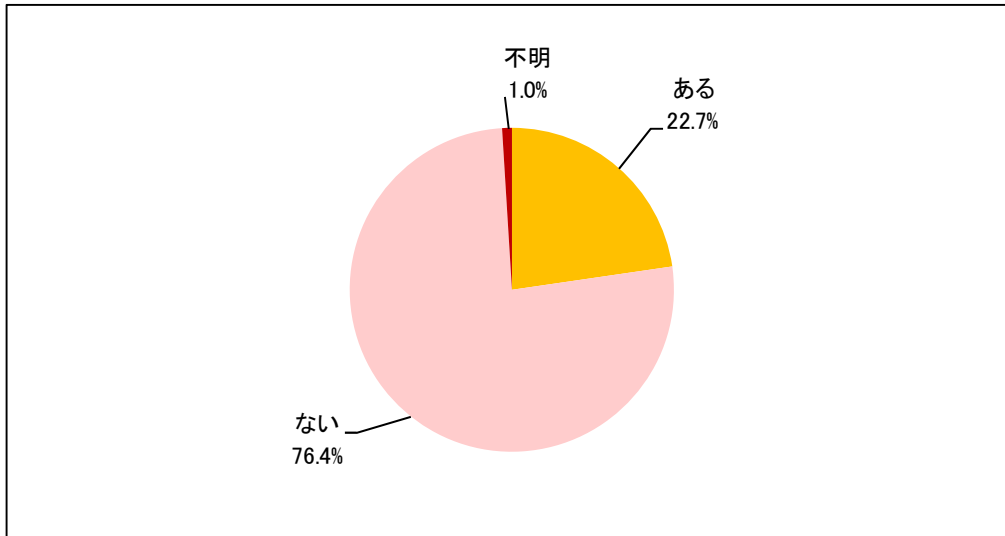


(n=313)

問3

安城市に転入する前にも安城市内に住んでいたことの有無（SA）

「ある」が22.7%となり、概ね2割程度がUターン居住となっています。



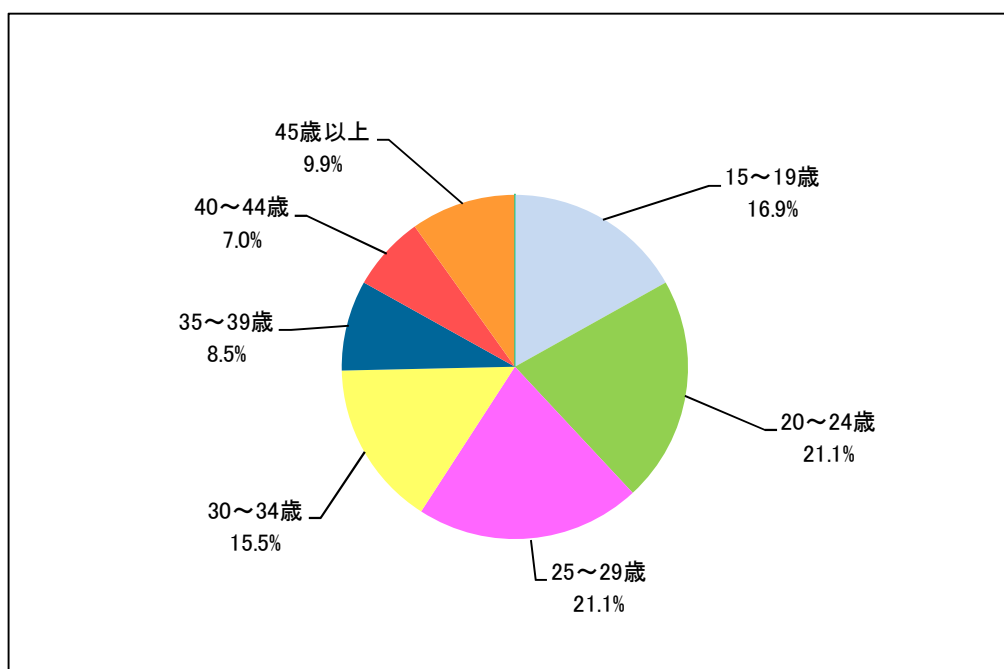
(n=313)

※ 問3で「1ある」を選択した人のみ

問4	かつて県外に転出したときの年齢（SA）
----	---------------------

「20～24歳」及び「25～29歳」がともに21.1%で最も多くなっていますが、前者は大卒後の就職、後者は結婚によるところが大きいと推察されます。次いで、「15～19歳」が16.9%となりますが、市内に大学がないことを考えると、高卒後の就職であると推察されます。

さらに、「30～34歳」が15.5%ありますが、この年代以降は、転勤や持ち家取得に伴う転出が多いと予想されます。

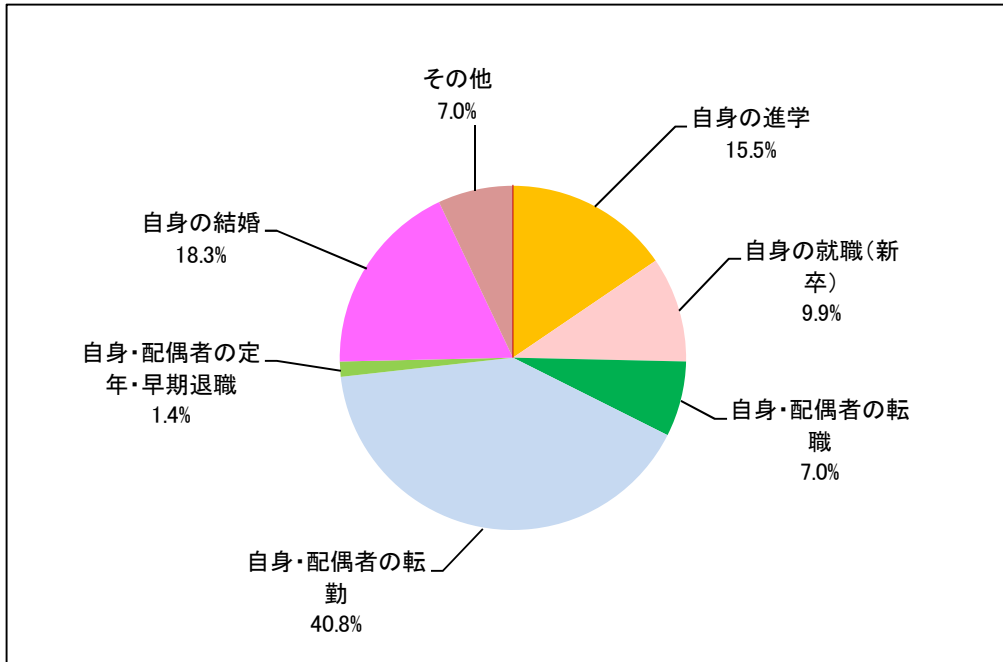


(n=71)

※ 問3で「1ある」を選択した人のみ

問5	以前県外に転出したきっかけ (SA)
----	--------------------

「自身・配偶者の転勤」が40.8%で最も多く、次いで多い「自身の結婚(18.3%)」を合わせると、これら2つの理由で約6割を占めています。

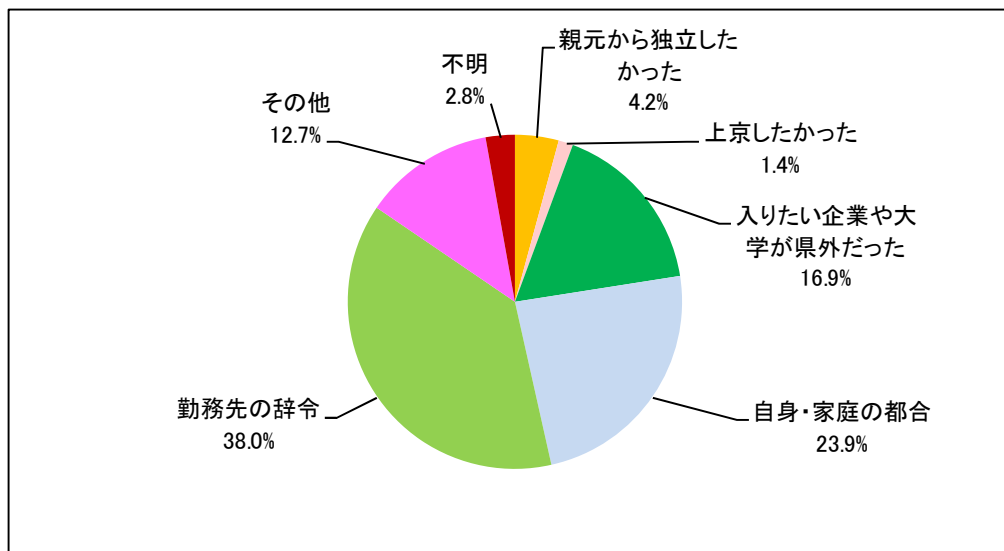


(n=71)

※ 問3で「1ある」を選択した人のみ

問6	県外に転出した理由 (SA)
----	----------------

「勤務先の辞令」が 38.0%で最も多く、次いで「自身・家庭の都合」が 23.9%となります。

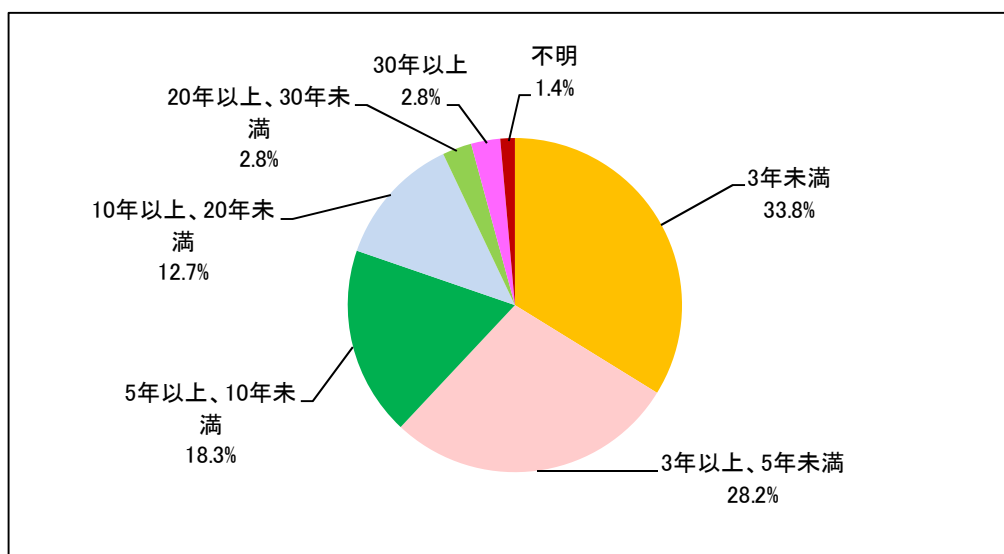


(n=71)

※ 問3で「1ある」を選択した人のみ

問7	県外に転居してからUターンするまでの期間 (SA)
----	---------------------------

「3年未満」が 33.8%で最も多く、約 1/3 の人が 3年未満の短期間で U ターンしています。次いで、「3年以上、5年未満」が 28.2%であり、5年未満が約 6割を占めています。



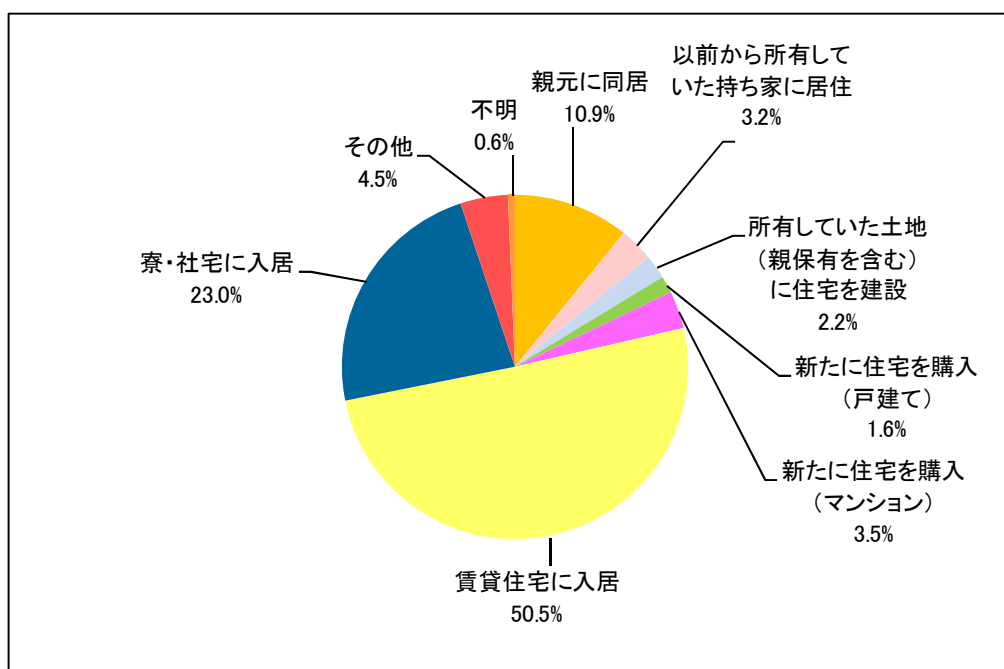
(n=71)

(2) 転入後の住まいや仕事の状況

問8	安城市で居住する住宅はどのように確保したか (SA)
----	----------------------------

「賃貸住宅に入居」が 50.5%で約半数を占めています。次いで、「寮・社宅に入居」が 23.05 となり、上位 2 項目で 7 割以上を占めています。

持ち家を取得した人は、「新たに住宅を購入 (マンション) (3.5%)」や「以前から所有していた持ち家に居住 (3.2%)」など約 1 割にすぎず、U ターン居住したものの、将来も継続して住み続けるとは限らないといえます。

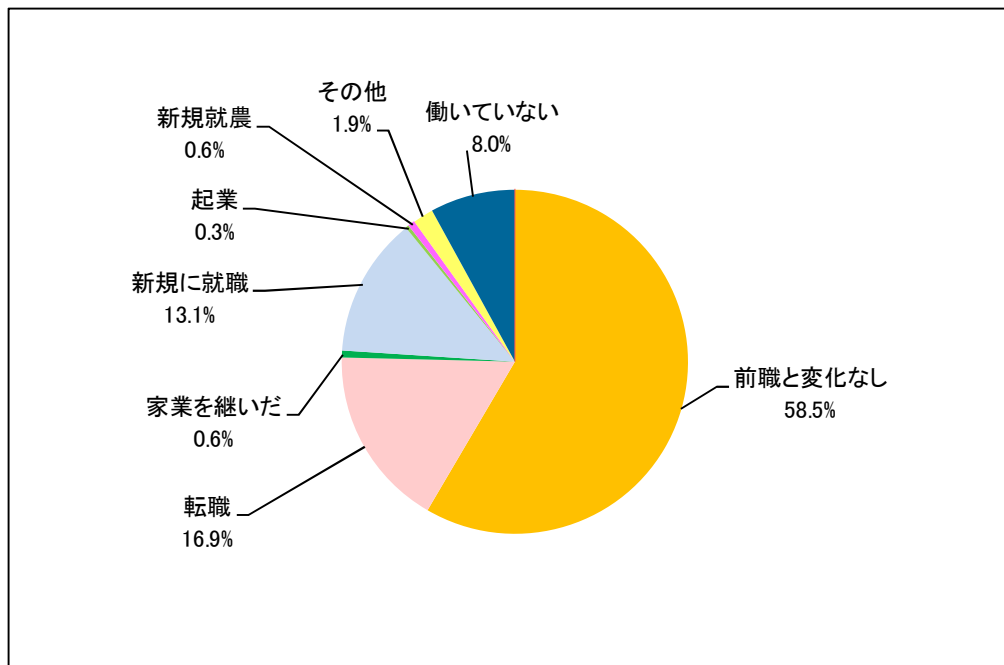


(n=313)

問9

安城市で居住するにあたり、家計を支える人の仕事はどのように確保したか（SA）

「前職と変化なし」が 58.5%で約 6 割を占めています。一方、「転職」は 16.9%、「新規に就職」は 13.1%であるなど、Uターンを主目的とした人が約 3 割と考えられます。

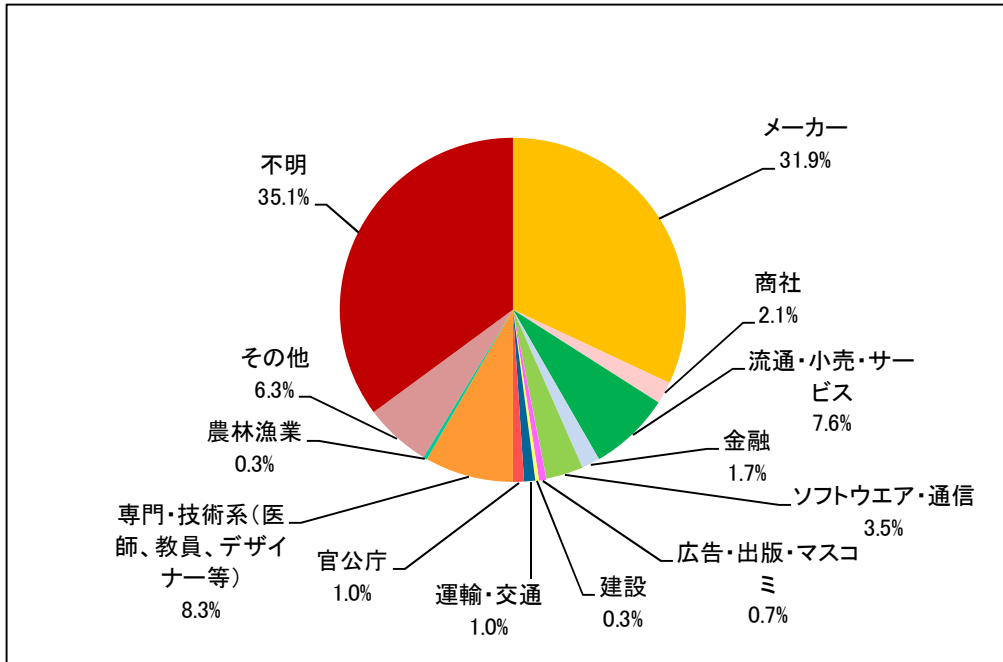


(n=313)

※ 問9で「8 働いていない」以外を選択した人のみ

問10	安城市への転入後、家計を支える人はどのような職種に就いたか（SA） ＜前職と変化の無い人は、転入当時の職種を選択＞
-----	--

「メーカー」が 31.5%で最も多く、次いで「専門・技術系（医師、教員、デザイナー等）」が 8.3%、「流通・小売・サービス」が 7.6%となります。

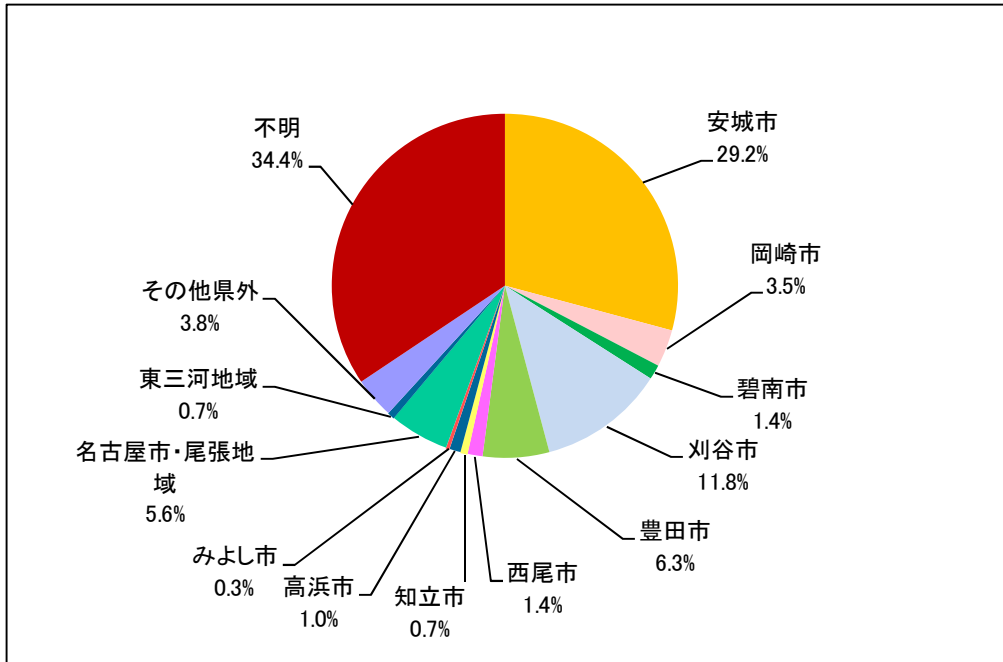


(n=288)

※ 問9で「8 働いていない」以外を選択した人のみ

問11	安城市への転入後、家計を支える人の勤務先 (SA)
-----	---------------------------

「安城市」が 29.2%で最も多く、次いで「刈谷市」の 11.8%、「豊田市」の 6.3%となります。

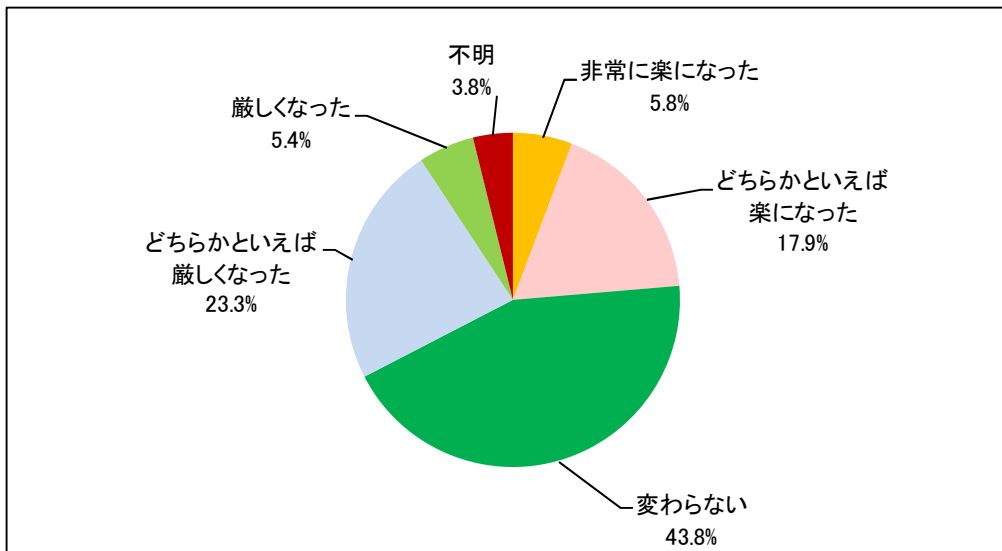


(n=288)

(3) 転入によるメリット・デメリット

問12 安城市への転入後、あなたの家庭の家計について (SA)

「変わらない」が43.8%で最も多くなりました。次いで、「どちらかといえば厳しくなった」の23.3%となりますが、「厳しくなった(5.4%)」を合わせると28.8%となり、「どちらかといえば楽になった(17.9%)」と「非常に楽になった(5.8%)」を合わせた23.6%を上回り、厳しくなったと見ている人がやや多い状況にあります。

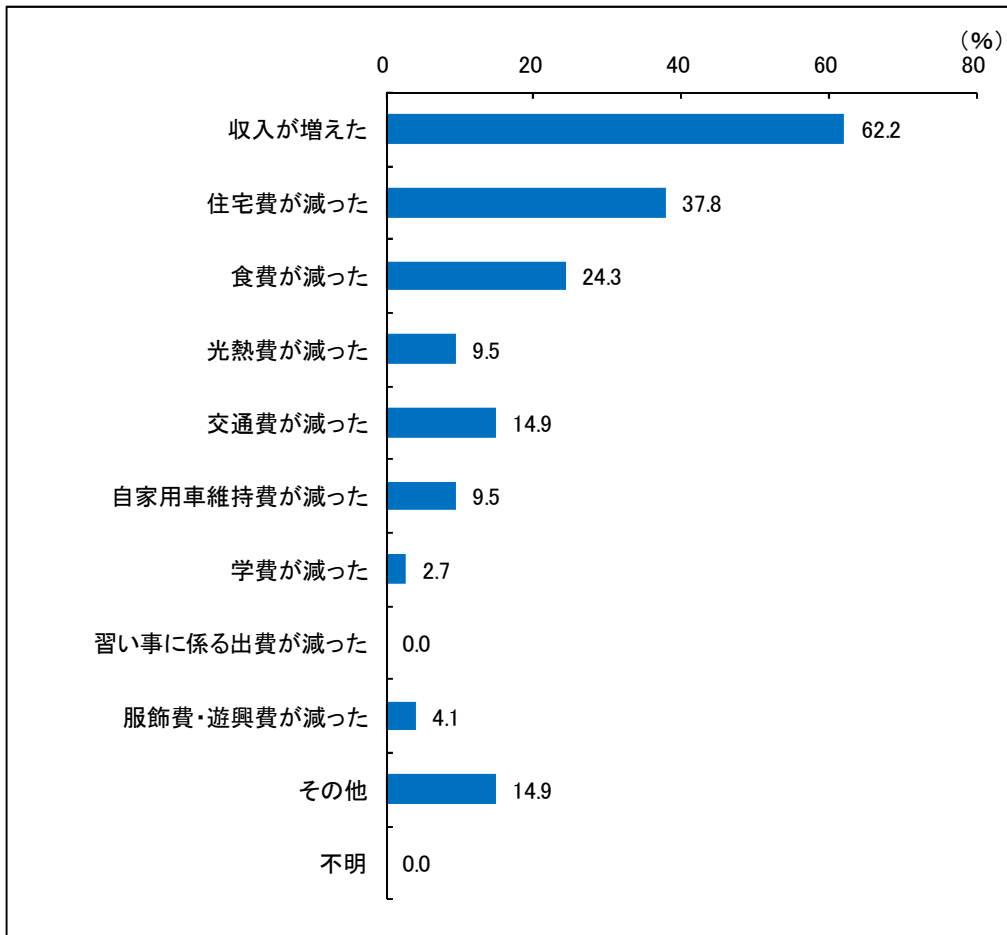


(n=313)

※ 問 12 で「1 非常に楽になった」、「2 どちらかといえば楽になった」を選択した人のみ

問13	楽になった要因について (MA: 当てはまるもの全て選択)
-----	-------------------------------

「収入が増えた(62.2%)」を6割以上が選択しています。また、「住宅費が減った(37.8%)」や「食費が減った(24.3%)」といった物価の安さが指摘されています。

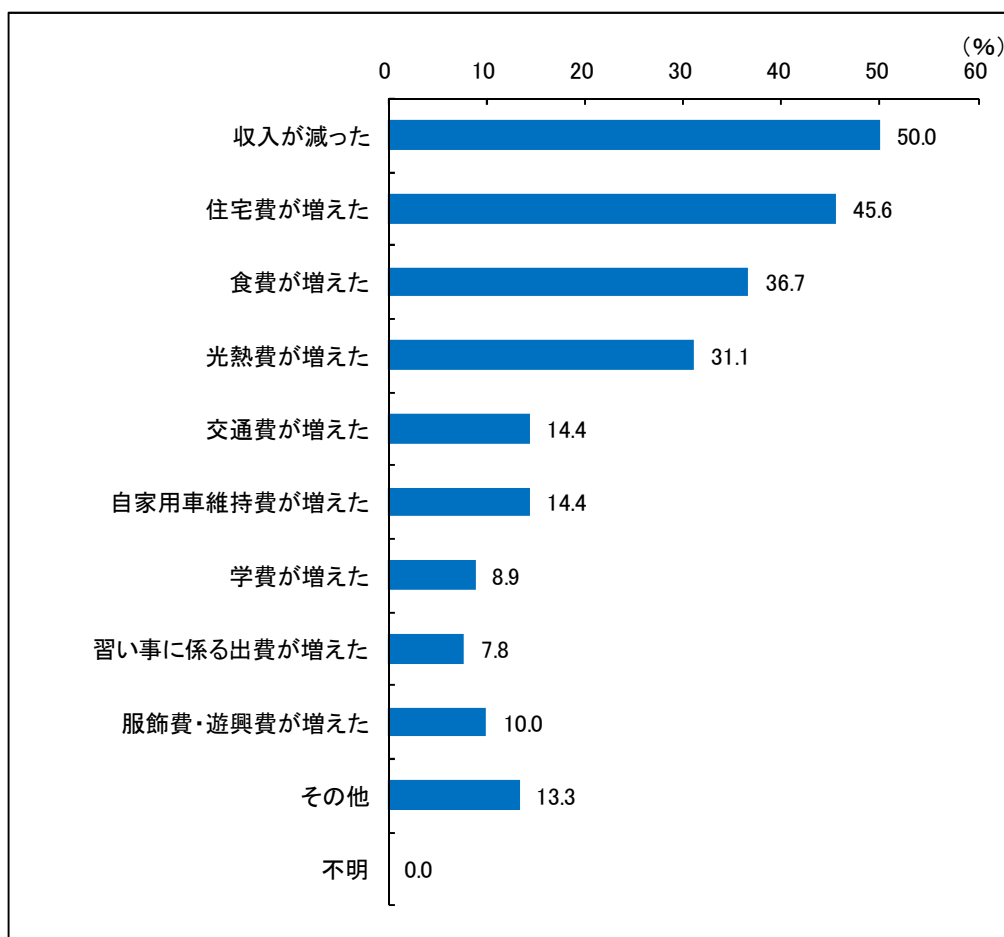


(n=74)

※ 問 12 で「4 どちらかといえば厳しくなった」、「5 厳しくなった」を選択した人のみ

問14	厳しくなった要因について (MA:当てはまるもの全て選択)
-----	-------------------------------

「収入が減った」が 50.0%と半数を占めており、転職や退職等に伴う影響であると予想されます。また、「住宅費が増えた (45.6%)」や「食費が増えた (36.7%)」といった物価を高さが指摘されていますが、楽になった要因と同じ項目が上位に選択されており、転入前の居住地の影響を受けたものと考えられます。



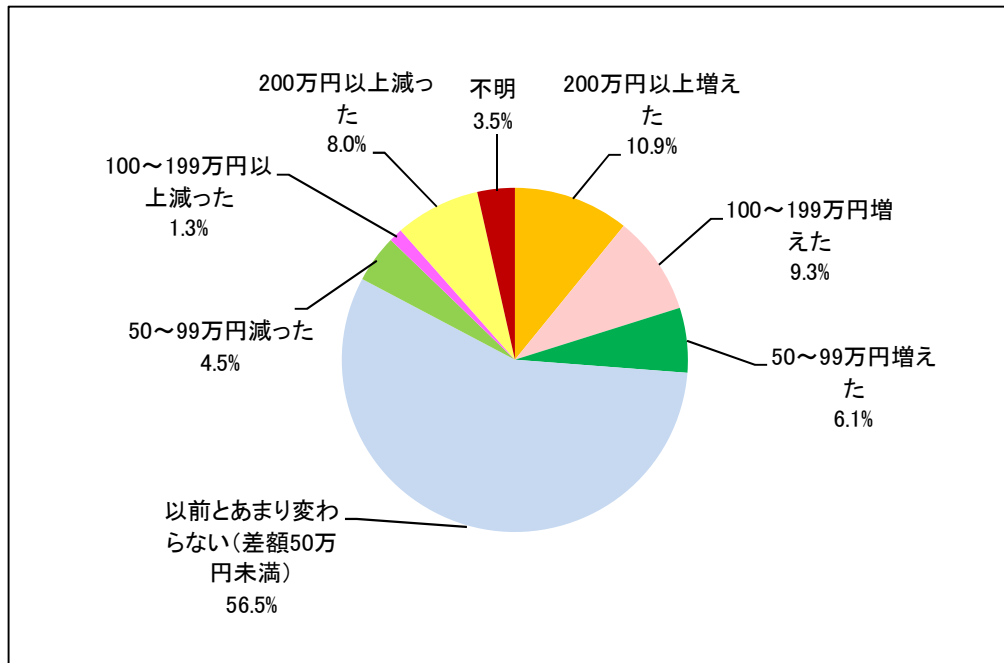
(n=90)

問15

安城市への転入後の世帯収入(年収)について (SA)
<転入前が学生等の場合は、仕送り等を含めた生活費総額と比較>

「以前とあまり変わらない(差額50万円未満)」が56.5%で最も多くなりました。次いで、「200万円以上増えた」が10.9%ありますが、学生で就職した人の回答であると予想されます。

また、50万円以上増えた人は26.2%となり、50万円以上減った人の13.7%を大きく上回ります。



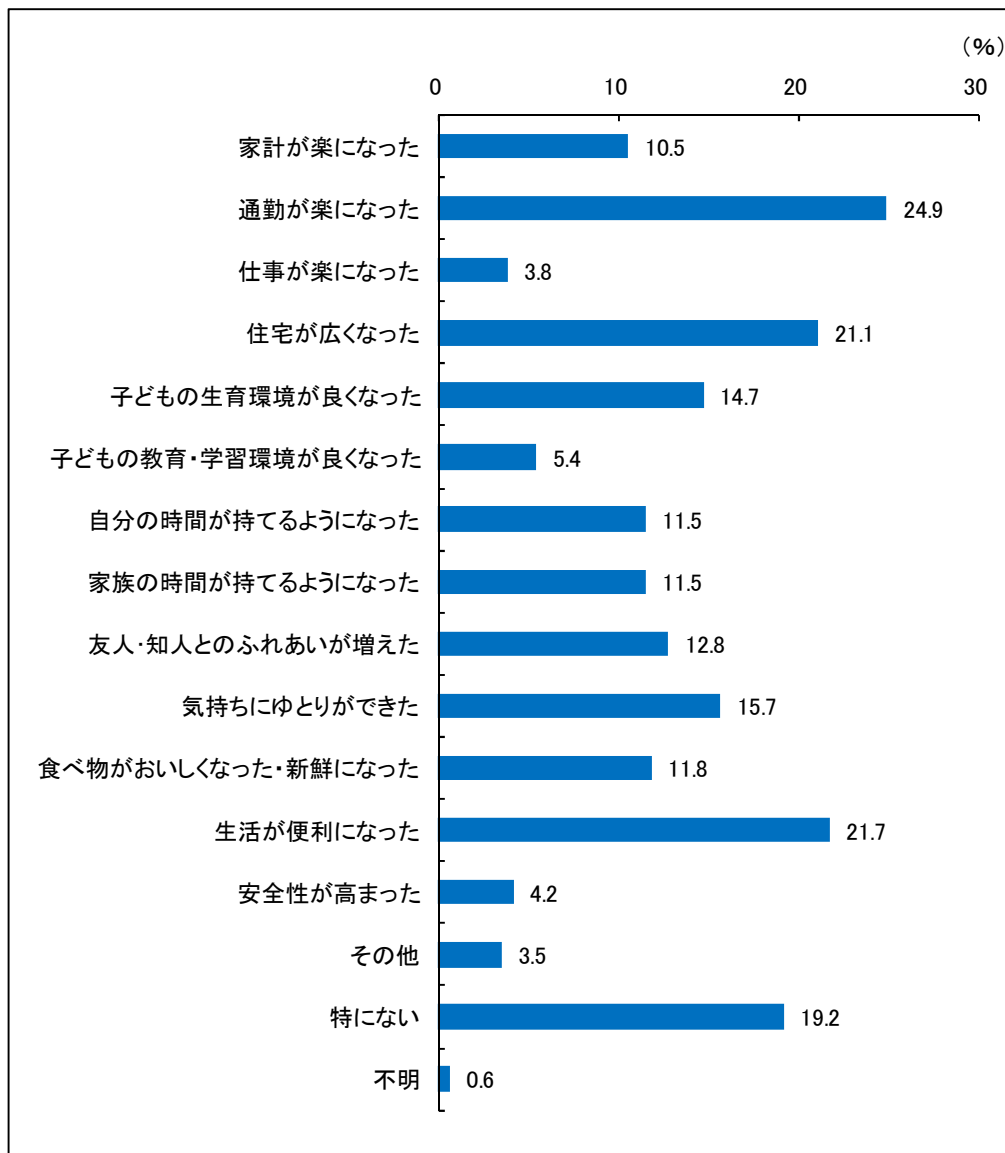
(n=313)

問16

安城市への転入後、良くなったと思うこと（MA:3つまで選択）

「通勤が楽になった」が24.9%で最も多く、安城市への転入により職住近接や満員電車の解消に至ったことが理由と考えられます。次いで、「住宅が広くなった」が21.1%。「特にない」が19.2%となっています。

この他、「気持ちにゆとりができた（15.7%）」や「子どもの生育環境が良くなった（14.7%）」、「友人・知人とのふれあいが増えた（12.8%）」、「食べ物がおいしくなった・新鮮になった（11.8%）」、「自分の時間が持てるようになった（11.5%）」、「家族の時間が持てるようになった（11.5%）」と、生活にゆとりができ、精神的な安定をもたらしていることがうかがえます。

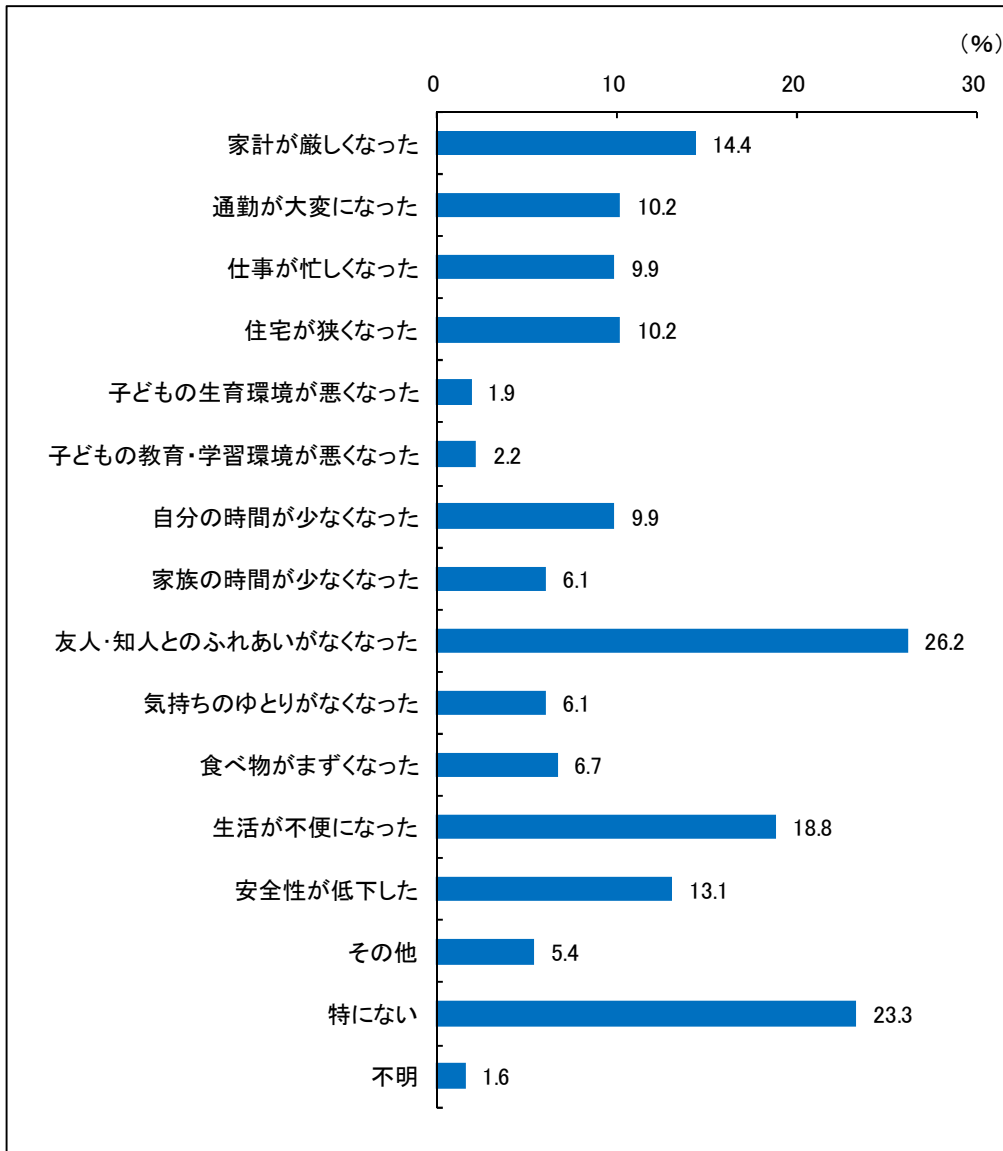


(n=313)

問17 安城市への転入後、悪くなったと思うこと（MA:3つまで選択）

「友人・知人とのふれあいがなくなった」が 26.2%で最も多くなっています。他地域から転居したことで従前の交友関係が途絶えた、あるいは、安城市で新たな交友関係が育まれていないと考えられます。

次いで、「特にない」が 23.3%となっており、良くなったことに比べて、悪くなったことはやや少ないといえます。

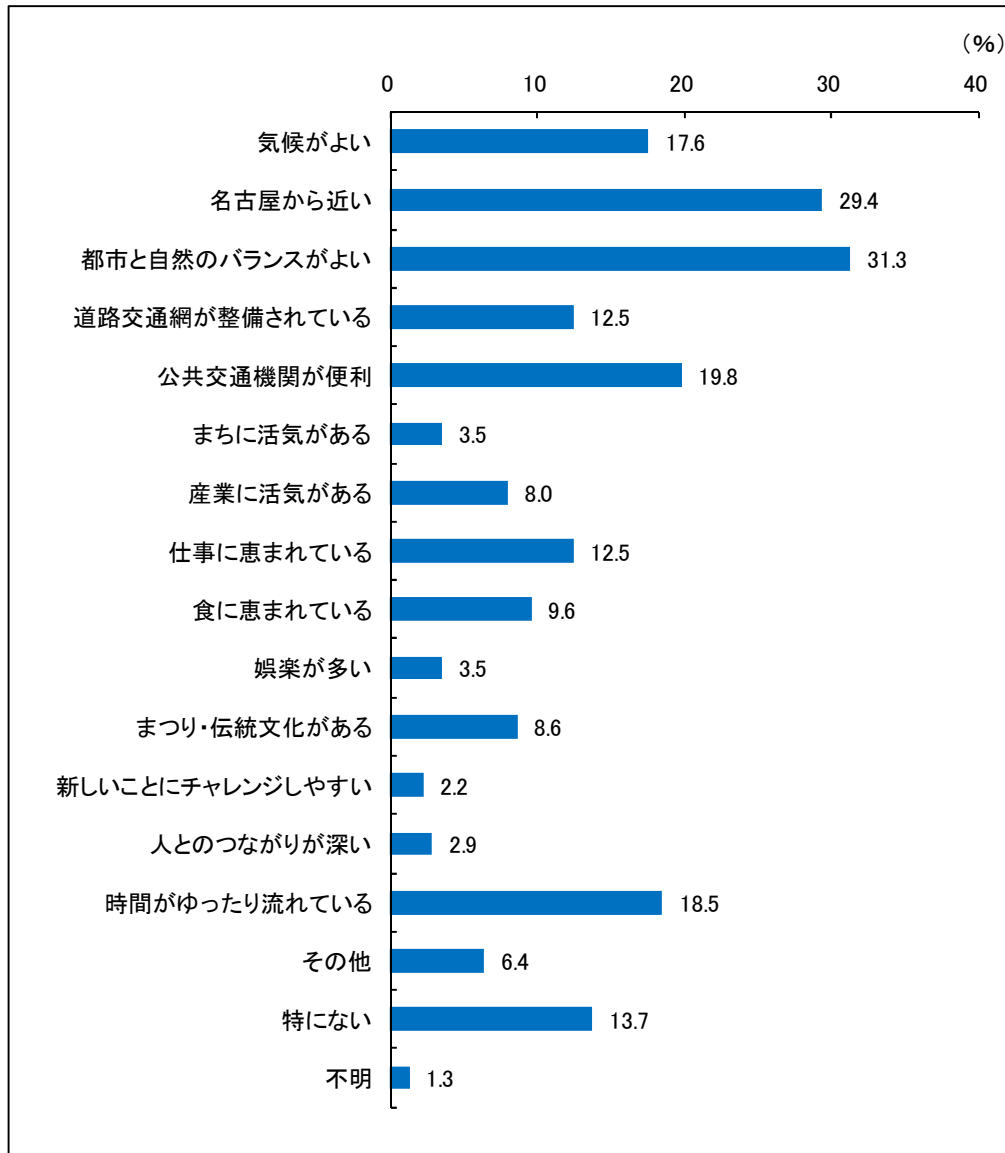


(n=313)

問18

前住地など過去に居住・勤務したまちと比較して感じる安城市の良いところ
(MA:3つまで選択)

「都市と自然のバランスがよい (31.3%)」と「名古屋から近い (29.4%)」の 2 項目が突出して多く、名古屋から近い自然環境に恵まれた都市というのが、安城市の価値として認知されています。次いで多いのが、「公共交通機関が便利 (19.8%)」や「時間がゆったり流れている (18.5%)」、「気候がよい (17.6%)」となった点からも、豊かな環境と利便性を併せ持つバランスが評価されていると考えられます。

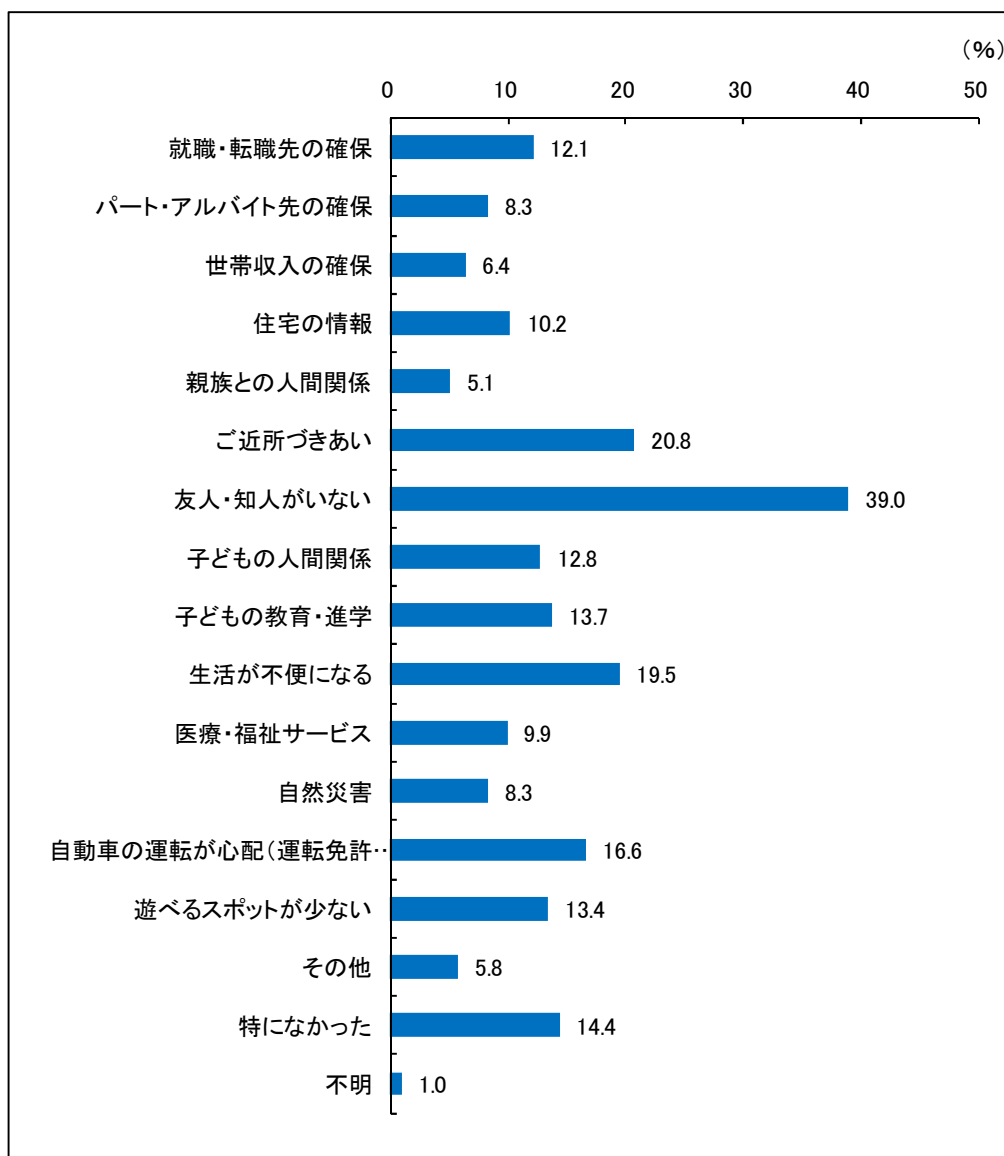


(n=313)

(4) 安心して転入するために期待すること

問19	安城市での居住を検討していたときに不安だったこと (MA:3つまで選択)
-----	--------------------------------------

「友人・知人がいない」が39.0%で最も多く、次いで、「ご近所づきあい(20.8%)」となり、交友関係を不安視していたといえます。また、「生活が不便になる(19.5%)」も約2割ありますが、問18の安城市への転入後、悪くなったと思うことでも、「生活が不便になった(18.8%)」が約2割となっています。



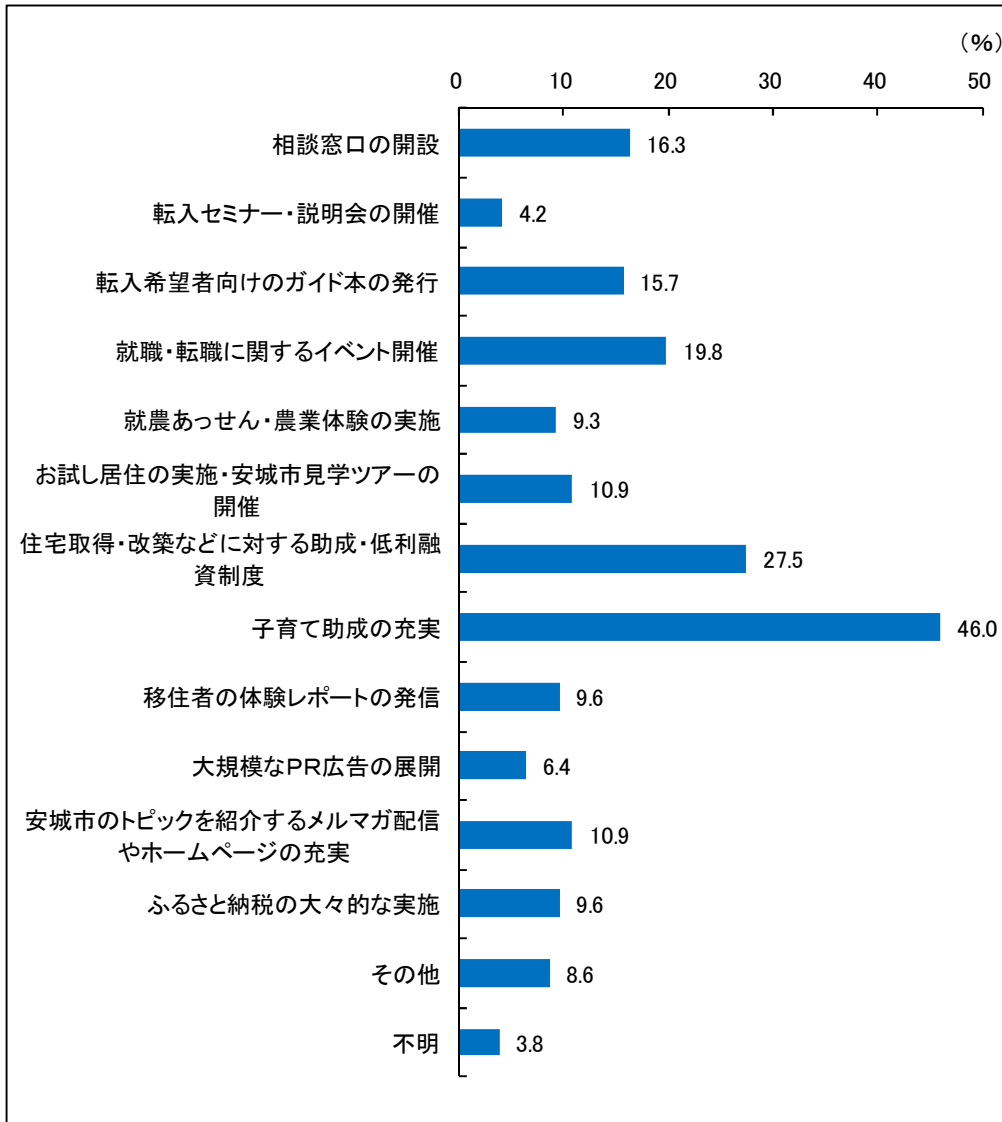
(n=313)

問20

安城市へ転入しやすくするために、どのような支援があると良いか
(MA:3つまで選択)

「子育て助成の充実」が 46.0%で突出して多く、次いで、「住宅取得・改築などに対する助成・低利融資制度」が 27.5%となり、経済的支援に対する意向が上位となっています。

この他で多いのが、「就職・転職に関するイベント開催 (19.8%)」の約 2 割となっています。



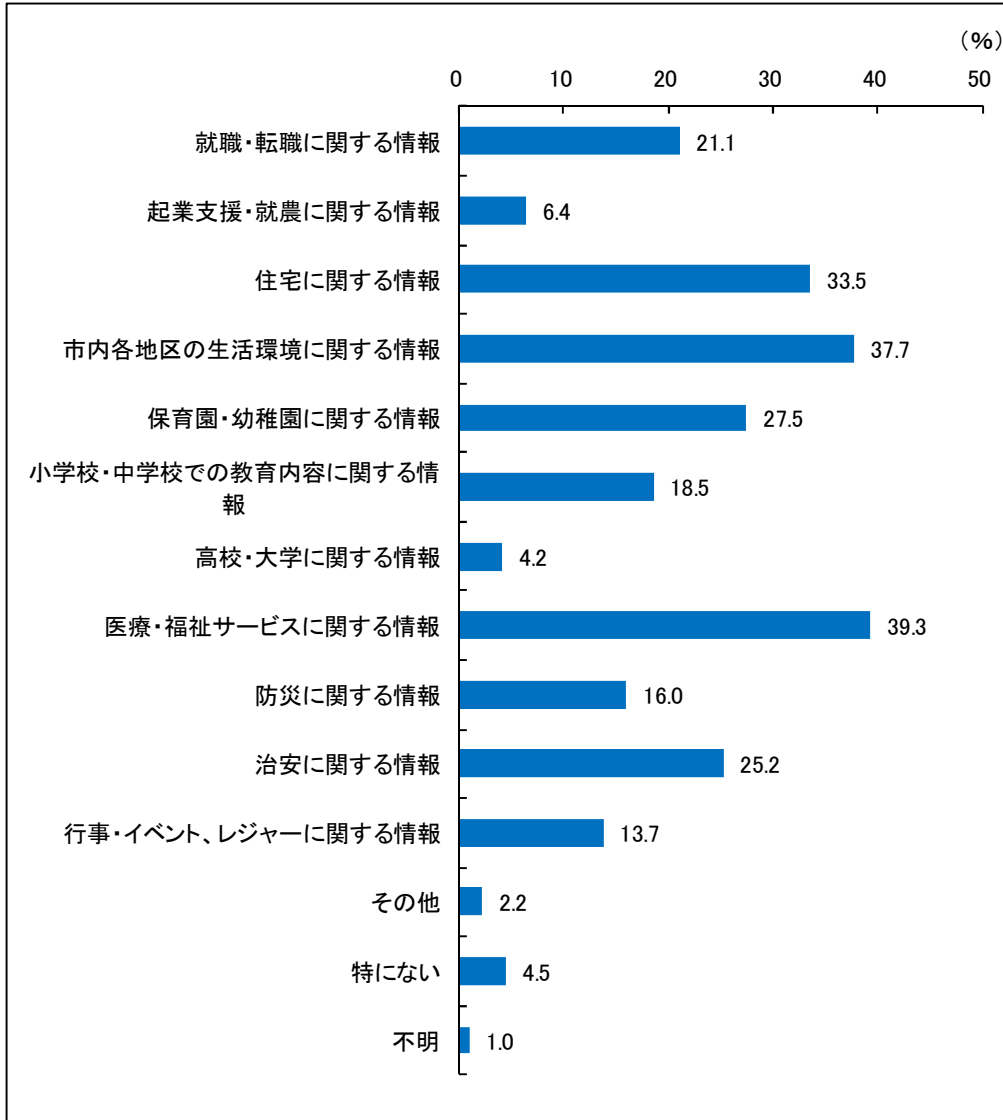
(n=313)

問21

安城市での居住を検討する際にどのような情報が提供されると良いか
(MA:3つまで選択)

「医療・福祉サービスに関する情報」が39.3%で最も多く、次いで「市内各地区の生活環境に関する情報」が37.7%となり、日常生活における居住地周辺の情報に対するニーズが高くなっています。また、「住宅に関する情報(33.5%)」も約1/3あります。

この他、「保育園・幼稚園に関する情報(27.5%)」や「治安に関する情報(25.2%)」、「小学校・中学校での教育内容に関する情報」など、子どもが育つ環境について把握したい一定のニーズがあることがわかります。



(n=313)